

防水形接地体 サンフレックス線工法のご提案

ご提案内容

地中の接地体は絶えず**厳しい環境**にさらされております。

特に線路際など地中で直流電流の流れている箇所や、臨海工業地帯のような潮の満ち干によって接地体が海水にさらされるような箇所では、**接地体寿命**は極端に短くなります。

今回ご提案のサンフレックス線工法はサンアース工法の接地極に**導電被覆線のサンフレックス線(38sq, 60sq)**を用い、接地極全体が**完全構造**のため、厳しい環境でも長寿命を維持します。またサンアースの敷設長が従来の倍に伸びるため、価格的にもサンアース工法と大差なく、長期的にみればきわめて経済的です。

さらに単位施工長あたりの**部材重量が軽くなる**ため、**送電鉄塔**など人力運搬の山岳施工にも適しています。

サンフレックス線工法のメリット(仏、米、韓、特許取得)

	従来工法	本工法
施工方法、原理	接地棒や、銅板が一般的で状況により断線の恐れあり。埋設地線は接触面積が少ないため接地抵抗が得にくい。	接地極が 完全防水構造 のため、腐食による 断線がなく 長寿命。サンアースで土壤の接触面積を増大させている。
取得接地抵抗	目標の接地抵抗が得にくく、追加施工が多かった。追加施工では掘削、接続等2度手間となっていた。	取得接地抵抗値は従来のサンアース工法と同様で、埋設地線の1/2から1/3
施工の難易性	接地棒や銅板は土壌により施工が困難なことがある。導電性コンクリート施工は施工管理が必要。	接続、分岐に 熱収縮チューブ や ジェルボックス を使用しているためごく簡単な施工で確実な 防水構造 が可能。
施工期間、価格等	ボーリングでは数日以上 ボーリングはコスト高(5万/m以上)	通常施工は1日以内 施工費は従来のサンアース施工とほぼ同等

施工例

導電性被覆線
サンフレックス38、60



本施工法
サンフレックス線工法施工例

